

いずみめの里だより

第二十九号

自分の美しさを誇り、水仙の花

寒さが強まり本格的な冬の訪れを感じるようになると、それまで赤や黄色に彩られていた公園や庭の木々も葉を落とし、すっかりさみしい情景になってしまいます。色彩を欠いた路を歩いている時、ふと陽だまりで水仙の花がほころんでいるのを見つけたら、一気に心が暖まってくる。

それほど大きくはない白い花が、一本の茎から次々と咲くニホンズイセン。水仙の中でも最初に咲きだす種でもあります。水仙は暖かい春に咲いているイメージを持つ方もいるかもしれませんが、別名『雪中花』とも言い、早いものは晩秋から咲き始めます。雪をかぶって耐え忍ぶように咲く花を愛でるのも、なかなかオツなものですね。

海岸近くの街では、しばし水仙ロードと呼ばれる名所などがあります。ニホンズイセンは名前に日本と付くせに実は原産国は日本ではなく、中国から流れ着いた球根が日本の海岸線に根付き、それが繁殖して日本各地に広まったと言われています。ニホンズイセンのルーツは海辺から始まったことになり、その名残で海辺には野生化したニホンズイセンが見られる場所があちこちにあるのです。

冬に見られるのは主にニホンズイセンですが、春になると花が大ぶりのラッパスイセンが咲き始めます。白や黄色の花びらに、白、黄色、ピンクなど、フリルたっぷりの長い筒状の副花冠を持つのが特徴です。ラッパスイセンは一本の茎に1つの花を咲かせるので、数で勝負のニホンズイセンと違い、ひとつひとつが実に堂々とした花を咲かせます。咲く場所も海辺や里山が似合うニホンズイセンに対し、ラッパスイセンは花壇や華やかなフラワーアレンジメントが似合うかもしれません。

水仙にはその他にも副花冠が大きく広がる大杯水仙、花びらや副花冠が幾重にも織りなす八重咲水仙など、様々な形状の水仙が冬から春まで私たちを楽しませてくれます。素朴な花と豪華な花、みなさんはどちらの水仙がお好みですか？

